秋田県教育委員会　令和元年度「障害者の生涯学習支援モデル事業」

特　徴

〇部局横断した庁内連携組織モデル
〇県から市町村への普及・啓発モデル

＜事業受託の背景＞
・特別支援学校卒業生が、休日の日中を一人で過ごしているケースが多く、生涯学習の場や機会の充実が求められている。

令和元年度事業概要

【県】
　〇障害者のための生涯学習支援連絡協議会（庁内関連部局連携組織）の開催(年2回)
　〇連携協議会（有識者・関係団体・再委託先・庁内関係課による協議組織）の開催（年3回）
　〇県生涯学習センターによる調査・研究
　〇「共に学び、生きる共生社会コンファレンス(東北ブロック）」の開催

【再委託先（5か所）】
　〇効果的な学習プログラムや実施体制の研究・開発

「障害者の生涯学習支援モデル事業」の実施体制

①社会福祉法人
北秋田市障害者生活支援センターささえ
＜特徴＞
・地域イベント等でのカフェ実施による地域活性化と障害理解の促進
・重症心身障害児（者）のカフェ参画の挑戦
＜内容＞
・特別支援学校とのコラボ
・東京都国立市との研修交流
・生涯学習イベントへの参加

②指定管理施設
能代市中央公民館
＜特徴＞
・特別支援学校在学中からの社会教育施設の活用
・既存の公民館講座講師の活用
＜内容＞
・料理教室、ユニカール他
・地域の冬祭りへの参加
・特別支援学校教員、生涯学習担当職員等に向けた研修フォーラムの開催

③社会福祉法人
潟上天王つくし苑
＜特徴＞
・高校生ボランティアの活用（事前研修実施）
・同世代交流による障害者のコミュニケーション能力の維持・伸長
・ひきこもりの状態にある障害者の参加
＜内容＞
・ボッチャ、ダンス、調理
・地域行事参加、社会見学

④NPO法人
障がい者支援事業所逢い
＜特徴＞
・地域の障害福祉資源の活用とネットワークの構築
・高校生ボランティアの活用
・一人暮らし、ＧＨ利用等、様々な生活スタイルに応じた講座の開催
＜内容＞
・ダンス、ウォーキング
・創作活動、展示会
・調理

⑤民間経営塾
トータルサポートスクールリード学舎
＜特徴＞
・生涯学習人材バンク、出前講座の活用
・国語や数学等の学び直しの機会を提供
・障害者、保護者へのカウンセリングの実施
＜内容＞
・創作、情報、書道、検定
・健康講座、消費者トラブル回避講座

効果的な学習プログラム・実施体制の情報提供

再委託先

県

効果的な学習プログラム・実施体制の開発依頼

県生涯学習センター
・調査研究
・市町村関係職員向け研修の実施
・県民への情報提供
・講座の実施

情報共有　報告

事務局（県教育庁生涯学習課）
【県連携協議会】
＜実施回数＞年３回
＜内　　容＞効果的な学習プログラムの検討、連携体制等について協議
＜構 成 員＞大学教授、県手をつなぐ育成会、就業・生活支援センター、相談支援事業所、市町村教育委員会生涯学習担当、再委託先事業所、特別支援学校、県障害福祉課、県特別支援教育課、生涯学習センター、事務局

情報共有　報告

県生涯学習推進本部
障害者のための生涯学習支援連絡協議会
＜実施回数＞年２回
＜内　　容＞庁内関係部局間での情報共有
＜構 成 員＞福祉、労働、スポーツ、文化、特別支援教育等、障害者の生涯学習に関わる取組を行う庁内各課室担当者

令和元年度　共に学び、生きる共生社会コンファレンス（東北ブロック）

〇期日・場所：令和元年12月5日（木）～6日（金）　＜於：秋田県生涯学習センター＞
〇参　加　者：生涯学習・社会教育担当職員、特別支援教育関係職員、障害福祉担当課職員、障害福祉事業所職員、親の会、保護者、当事者等（約150名参加）
〇内　　容：行政説明、公演、基調講演、模擬講座、鼎談、分科会
〇参加者アンケート：「これまで障害者と接する機会がなかったが、当事者の方の夢と希望の発表や、講座に参加している様子を知り、障害者観が変わった。」（社会教育関係者）

今後の方向性

令和2年度

・再委託先５か所（継続）
・県内２５市町村で障害者が参加できる講座の開設
・生涯学習センターによる調査に基づく市町村への相談・助言等の充実